

岡山県社会教育委員の会議 議事要旨

平成24年度第1回社会教育委員の会議全体会(H24.11.6)

「平成24年度主要事業について」の御意見

- ・地域連携担当について、今年初めて学校側の窓口として、地域連携担当という明確な役割の方が学校の中にできた。地域連携担当を設けてたことで、地域の思いを学校全体に行き渡らせることができる。地域連携担当が、学校には地域が必要、地域には学校が必要という意識を持ち、地域連携を進める力になってほしい。
- ・ホリデイわくわく事業について、美咲町でも「ホリデイわくわく」の事業をとっている小学校がある。状況を見ると、学校支援地域本部でも担えるのではないかと思う。生涯学習課と指導課で話をし、予算を学校支援につけて、地域と学校がうまく連携して、学力向上を担えるような、そういう施策に作り変えてほしい。
- ・家庭環境改善サポーター配置事業について、民生委員の協力体制もできているし、民間の色々な機関、委員などたくさんあるので、そうした資源を最大限活用して、家庭をサポートしていくことに力を注いでほしい。

「全国学力・学習状況調査及び問題行動等に関する調査結果について」の御意見

- ・高校生で学校に行けなくなって、フリースクールに通う子を取材した。その時、その子は不登校児童生徒の数を「それは助かった人の数だから、良いんじゃないですか。学校へ行かなくてよくなった、助かった人の数だと私は思います。」と言った。今、子どもの自殺も相次いでいる。この数字が多い方が良いということではないが、議論のベースに当事者の多角的な見方も必要だと思う。

「平成24年度の研究課題の方向性について」の御意見

- ・教室が荒れると、学力が低くなるという傾向がある。また、宿題を多く出している所が、学力が高い訳ではなく、宿題の内容が関係している。いずれにしても社会教育の視点から学力向上を捉えるというのは賛成だ。
- ・昨年度の提言が提言で終わらないようにしたい。どういう所が、どのように連携をしたら、どんな成果があるのかというプロセスが見える化することも考えられる。岡山県の学校や子どもたちの抱える課題解決につながるところもあるので、今後具体的な事例からのアプローチ、プロセスの見える化などに取り組んでみてはどうか。
- ・学校が弱音を吐く訳ではないが、学校の取組にも限界があると思う。社会教育からのアプローチということに関して、学校が地域とどういうつながりを持ってやっていくのがよいのか考え深めてほしい。
- ・H23年度の提言の中に社会教育主事が全体の総合調整をするとある。最近、社会教育主事の影が薄くなったという話を聞く。ある市でも資格者はいるが、発令が行われていない。社会教育主事が少ない、という感じがする。
- ・私も社会教育主事の資格を大学の時に取得した。大学にはもっと社会教育についてアピールして欲しい。社会教育について学べる場がもっと広がればと思う。学生の視野も広がると思う。
- ・ひきこもりにしても、暴力問題にしても、常に網の目からこぼれる子どもたちがいる。それを救済するのは教師だと思う。